練馬区立旭町小学校　学校だより　３月号　平成２９年２月２８日発行　校長　道山　正史

きらめく風

すすんで学ぶ子ども　心ゆたかな子ども　体をきたえる子ども

学校の「顔」

旭町小学校長　道山　正史

平成 28 年度、最後の月を迎えました。先日の６年生を送る会では、６年生を１年生が連れてくる光景が今年も見られ、校長としてとても幸せな感情をもつことができました。また各学年も６ 年生に喜んでもらおうという意欲が感じ取ることができるすてきな会でした。それにしても今年の６年生も、そのような各学年の出し物をとてもすてきな笑顔で見たり参加したりすることができる素晴らしい６年生でした。こういった雰囲気が毎年醸し出せるのは、やはり最高学年である６年生が、落ち着いていて積極的で下の学年に慕われているからです。そしてそれが毎年続いているからです。これこそ旭町小学校の伝統として今培われていることなのです。

さて、今年度は夏から秋にかけて約 4 ヶ月間お休みをいただかなければならないこととなり、子供たちや保護者の皆様、地域の方々、そして教職員には大変ご迷惑をおかけいたしました。その間、旭町小学校が落ち着いた状態であったこと、だからこそ安心して入院していられたこと、そして復帰することができたことに感謝しています。それもこれも６年生が旭町小学校の最高学年として行動しいろいろな行事に取り組んでくれていたからだと思います。旭町小学校の「顔」としての役割を自然と果たしてくれていたからなのです。

3 月 24 日に卒業式を迎える 49 名の６年生。もう一度言いますが６年生は学校の「顔」なのです。6 年生を見ればその学校がわかるといわれています。申し分の無い立派な6年生でした。そんな６年生にも１年生の時はあったのです。その１年生はどうやって立派な６年生になったのでしょうか。その子その子で成長の仕方は異なりますし、いろいろな理由もあるけれど、そのうちの一つには間違いなく縦割り班活動があると思います。下級生が上級生といっしょの班で掃除をし、給食を食べ、遠足に行き、休み時間に遊ぶ。きっと班の最上級生や班長になりたての頃やなる前には、めんどくさいと思ったり、そんなことできないと弱気になったりしていたことでしょう。でも経験を積む毎に、行動も考え方も立派な上級生や班長になっていったのです。その成長をずっと見守ってきた教員の喜びやこの時期の寂しさも推して知るべしです。

しかし５年生がすでに最上級生としての準備を始めています。６年生を送る会がその出発なのです。

今年度の教育活動にあたり、保護者･地域の皆様、関係諸機関の方々には、ご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。